

202

こんにちは。塾長の大井です。

5期生受験戦記第7回です。

Uくんが幾分決まりが悪そうな顔をしてやって来ました。お母さんの言う通り、Uくんが自信を無くしているのは事実でした。

Uくんは言いました。

「学校の先生がオレをバカだってふうにあつかうんだよ！そんなこと言われてがんばっても意味ないじゃん。」

「それは悔しいよな。だから学校に行きたくないのか。」

「そうだよ！みんなだって一緒になってバカにすんだよ。」

「そうか。じゃあなんでTOPに来ないんだ？」

そこでUくんは言葉に詰まりました。

「先生がUをバカにしたか？」

「してない・・・。」

「クラスの誰かがバカにするのか？」

Uくんは首を振りました。

「じゃあなんでだよ？」

「オレなんか何やってもダメなんだよ。・・・だからもういいんだよ。」

「それはがんばらなくてもいい理由じゃないのか？」

「ちがう！」

「そうか？じゃあバカにされたから、自分はダメだって認めて、全部投げ出していいのか？それこそ負けじゃないか。」

「・・・。」

「負けんなよ。悔しかったら見返してやれよ。お前はダメじゃないって証明できるだろ。」

そこでUくんは顔を上げて、私の目を見つめました。

「U、人は変えられないけど、自分を変えられる。TOPが好きならしがみつけよ。それでお前がどれだけのやつか証明してみろ。お前をバカにしたやつにも、自分にも。」

翌日、お母さんから電話がかかって来ました。

「明日からまたTOPに行くって言ってます。」

Uが言っていました。『大井先生、辞めようとしているオレに課題出すんだよ、スゲーよな。』

久しぶりにあの子の明るい顔を見ました。」

私がUくんに出した課題とは、なぜ最後に TOP に来たのか、その気持ちを作文してくることでした。

その作文にはこう書かれていました。

「TOP で受験して成長したい。」

Uくんは TOP に留まりました。

(第8回につづく)

2019年7月8日

大井 雄之